

男性の皆さん、ご家庭で家事・育児をされていますか？

日本の男性の家事・育児参画時間は、欧米の3分の1くらいなんです。

平成25年度「あおもりのカジダン・イクメン」フォトコンテスト入賞作品の被写体となっているカジダン・イクメンの皆さんから、家事・育児を楽しむための秘訣を教えてください。

同世代の男性へメッセージをお願いします

子どもから学ぶことは多いと言いますが、まさにその通りです。自分では最近、考えと行動が落ち着いてきたなあと感じています。子どもの成長を楽しみながら、自分も成長する。これが育児の醍醐味かもしれません。積極的に家事や育児に参加して、自分を高めましょう。

入選



「かいじゅうさんとどこまでも」(佐々木 たまえさん)

青森市

佐々木 健亮さん

ご自身のカジダン・イクメンへの歩みを教えてください

子どもが生まれる前は、手が空いているときや頼まれたときだけ家事を手伝う程度でした。初めて生まれた子どもが双子だったこともあり、妻1人では手が回らず、自分も積極的に家事や子どもの世話をするようになりました。生活スタイルがガラッと変わり、最初は戸惑うこともありましたが、半年過ぎたあたりからは、家事も育児も生活の一部として当たり前のようにこなせるようになりました。子どもと意思疎通ができるようになってくると、楽しいと思えることも増え、自分自身の心も豊かになっていったような気がします。

上の子たちが3歳になった時にもう1人子どもを授かり、さらに賑やかに忙しくなりましたが、充実した毎日です。

家庭内の決め事はありますか？

特に決めていることはありません。夫婦共働きなので、家事はお互いが出来る限りのことをしています。相手が疲れているなあと思ったら、自分がやる。苦手分野もあるので、お互いにカバーし合っています。

私の毎日の日課は、保育園の送り迎えです。帰りに小さな公園があるのですが、なるべく立ち寄って子どもと一緒に遊ぶようにしているほか、会話を大事にしています。朝の挨拶から始まり、その日の出来事を聞くなど、とにかく声をかけて話をするを心がけています。

家事や育児を楽しむコツを教えてください

生活の優先順位を見直すこと。自分ではなく子どもを1番にすることで、自然にやらなきゃいけないことに目がいくようになるんです。それで私も、自ずと家事や育児をするようになりました。自発的にやるからこそ、楽しめているのだと思います。



「あおもりのカジダン・イクメン」フォトコンテスト入賞作品



最優秀賞

「まだまだあるよ!」(十和田市 東美絵子さん)



入選

「ありがとうの笑顔」(おいらせ町 成田ひとみさん)



入選

「たっちの練習」(弘前市 對馬早苗さん)